

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202206		
法人名	社会福祉法人アミカル		
事業所名	グループホーム アミカル		
所在地	岡山県倉敷市玉島1279		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 23 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家庭に近い環境で日々過ごして頂くことが一番のポイントです。居室の中にも昔使用していた物や家族の写真等、置かれ、いつでも家族を感じる環境を目標にしています。お宅で使用していたタンスや電化製品も持ち込み可能です。各個室、トイレ完備です。ご自分が使用したい時に自由に使えます。ご飯もホールに對面キッチンであり、匂いを感じ目覚め、ホールに出て頂いています。夜更かしをしまい朝起きれなくなってしまう方には、料理を最後にする等の工夫も行っています。季節を感じて頂くためにアウトドアでの食事や施設内での催し物、レイアウトも行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370202206-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370202206-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 6 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の思いは、「家族に安心して頂くこと」と「利用者に楽しんで生活して頂くこと」を念頭においている。入居時に、できることやできないことについて、わかりやすく丁寧に説明するように工夫している。面会もコロナ状況を鑑みて、窓越し面会や駐車場などの外での面会を経て、現在は居室で対面式で実施している。衣替えの時期には、家族に洋服を持ってきて頂き、必ず利用者に直接手渡しすることで、顔を合わせるようにしている。利用者の健康維持のために、理事長考案の新しん体操が日課となっている。利用者の楽しみの1つである食事やおやつの際には、職員は言葉掛けや話をしながら楽しい雰囲気作りに努めていた。夏には施設の駐車場で花火大会を開催し、秋には連島の浄水場へ他施設と合同でミカン狩りへ出掛けた。また、鴨方方面へ家族を交えての1日バス旅行が実行でき、利用者の笑顔に繋がっている。評価員の「何かほっこりしたエピソードはありますか」の問いかけに、「たくさんありすぎてわからない」と主任は答え、その問いがさらに、ケアマネジャーや職員全体に派生していて、一体感を生んでいた。これは常日頃から職員間の信頼関係の深さを象徴していて、それが利用者の穏やかな生活の支えとなっている。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングにて理念について話し合い、日々のサービスを振り返り、理念が生かされているかどうか確認している。	理念は、法人とグループホームの事務所の見える所に掲示していて、毎日の朝礼で唱和している。法人内で異動してくる職員が多く、理念は浸透している。日々の介護で迷った際には、理念を振り返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの対策により、餅つき大会・納涼祭・秋祭り・しめ縄作り・クリスマス会に外部の方をお呼びすることが出来なかった。R5年5月31日から運営推進会議の復活あり。地域のお祭りでお神輿が来るなど、少しずつオープンにすることが出来た。	コロナ禍でも地域の散歩は可能としていて、出会った方と挨拶を交わす関係ができています。隣接する保育園の子どもと会った際には、利用者は笑顔になり童心に返っていた。秋祭りでは、地域のお神輿が目の前まで来て、利用者は大いに喜んだ。	地域交流の再開に向けて、今から準備や計画を立ててみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個別の相談は電話連絡や見学、相談に来られ、その都度お話を聞き、相談及び施設の紹介を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R5年5月31日から運営推進会議の復活し、利用実績や業務の報告、ひやりハット報告など行った。面会や外出の緩和も議題に出て前向きに話が進んだ。	玉島東高齢者支援センター、有識者として法人の元事務長、町内会長、GH他施設の管理者、家族が参加している。人事異動、利用者状況、行事予定の確認報告、アクシデント報告を行い、参加者からも意見を聴取している。また、支援センターより人工透析の情報を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	玉島東高齢者支援センターを通じて連携を図っている。認定調査の機会等にも利用者の暮らしぶりやニーズを伝えている。	窓口の基本は主任が担当し、介護保険に関してはケアマネジャーが担当している。高齢者支援センターが隣接する施設内にあるので、連携が取りやすく、いつも助けて頂いている。直近では、GHでの受け入れ規約の確認を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が積極的に動き、施設や設備に関しては、月に1度確認し現在は拘束は行っていない。帰宅願望のある利用者においても、止めるのではなく職員と一緒に散歩等し、落ち着くまでお付き合いしている。	身体拘束委員会は法人全体で行い、代表者がミーティング時に伝えて、拘束に当たるかどうかの再確認をしている。虐待防止のセルフチェックシートにて確認をして役員の方に提出している。帰宅願望がある方へは、廊下を歩いて落ち着いてから、外気に触れるように工夫している。日中は玄関の施錠はなし。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	気付かないうちに不適切なケアになっていないか、家族や利用者、職員からのご意見を頂いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	老協協等が主催する研修に参加し、復命研修を行っているが只今、稼働していない。年に2回、各委員会主催で研修並びに勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章を読むことをせず、分かりやすく時間を取って説明している。重度化や看取りについての対応、介護や医療連携体制等について説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や訪問時、運営推進会議等で常に問いかけ、何でもお話頂けるような雰囲気作りを行っている。	面会はコロナの状況を鑑みて、ガラス越し・外で実施し、現在は居室で行い、全員が面会に来られた。5類以降は、近所の方やいとこの訪問もあった。利用者の様子を自分の目で見て頂きたいとの思いから、GHIに足を運んで頂くようにしている。実家に帰りたい願望がある方へは、外出許可を出したら家族や利用者が満面の笑みを浮かべた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを概ね月1回行い、意見を聞いている。日頃からコミュニケーションを図り、話しやすい関係を作っている。	毎月ミーティングを開催し、職員の意見を吸い上げている。ベテラン職員が多く、お互いが意見を言いやすい雰囲気となっている。「何かありませんか？」と主任とケアマネジャーに質問したら、様々な意見が飛び交って、雰囲気の良さが窺えた。職員の要望から全室のエアコンの買い替えに繋がった。	今でも十分にできていますが、職員間で更なる意見交換に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に出て来ており、利用者や職員と一緒に食事を摂ったり、職員の業務や悩みを確実に把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じ、なるべく多くの職員が受講出来るよう計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や来設、研修を通して事業所外の方の意見や経験をケアに生かしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に会う前にフェースシートを読み、把握した上で本人に会って、心身の状態や思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みや契約時に、これまでのご家族の苦労やこれまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所の紹介やケアマネとの連携も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら、穏やかな生活が出来るように声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きについて情報を共有し、利用者と一緒に支えるために家族と同じような気持ちでケアしていることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ対策で極力面会を減らしていたのだが、誰でも面会出来るように状況を見て解除した。ご家族や身内の面会は増えた。	面会はコロナの状況を鑑みて、ガラス越し・外で実施し、現在は居室で行っている。また、全員が面会に来られ、5類以降は、近所の方やいとこの訪問もあった。実家に帰ってリラックスされた方もいる。利用者同士が挨拶を交わし、職員が帰宅する際には、「お疲れ様」の言葉を掛けるくらい馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報収集し、すべての職員が共有出来るようにしている。又、心身の状況や感情で日々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の場合には退所されることが多い。受け入れの相談や関連施設の紹介も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が深い方も多いため、思いを把握するのが困難な場合が多いが、日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情等からその真意を測ったり、それとなく確認している。	入居時にフェースシートにて、家族構成や趣味、生活歴を把握している。アレルギーだと聞いていた方がいたが、嫌いな食べ物だったということがわかり、今では自然と食している。利用者が話しやすいように楽しい雰囲気作りに努め、選択肢を与えて答えやすいように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを知ることで、利用者への理解につながっていることを十分知り、個性や価値観等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人ひとりの生活リズムを把握し、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族には、日頃の関わりの中で意見や思いを聞き、反映させるようにしている。アセスメントは職員全員に意見交換し、モニタリングやカンファレンスも行っている。	入居時に暫定プランを作成し、3ヶ月、6ヶ月毎に見直している。何かあればその都度、利用者に合わせて更新している。本人や家族からの聞き取りを行い、フェースシートに沿って、相手の思いや意向を確認している。引きこもり気味の方へは、リビングへ出て頂けるように配慮している。モニタリングは6ヶ月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状況変化は、個々の記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。又、個人記録を基に介護計画の見直しや評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じ、通院等必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に玉島東高齢者支援センターの職員も参加し、問題ケースの利用者の受け入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望したかかりつけ医に受診して貰っている。又、基本的には家族同行の受診にしているも不可能な場合には職員が代行している。	かかりつけ医は、入居時に選んで頂いているが、全員が協力医へ転医している。訪問看護の方が、週2回来られる。何かあればすぐに駆け付けてくれ、24時間体制で相談窓口を開いている。病院が隣接しているので、散歩がてら歩いたり、車を押して行くようにしたりしている。ドクターとの関係も良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションあおぞらとの契約に基づき、日々の健康管理や医療面での相談・助言・緊急時の対応も行って貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人への支援方法に関する情報提供を行い、許せる限り職員が見舞いに行っている。又、家族や地域連携室等と情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期のあり方について希望を聞いている。変化があった場合には、その都度改めて話し合い、意向を確認している。病状が悪化した場合には病院で治療となり、今段階では看取りを行った実績はない。	看取りは実施していないが、最期ギリギリまで施設で過ごして頂くようにしている。入居時に「急変時における対応から看取りに関する指針」にて説明し、同意を得ている。各科受診サマリーや約束指示の書面を活用して、病院や家族と連携を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや玉島消防署による定期的に救急手当や蘇生法の勉強会や緊急時の対応を模擬で実施し、全ての職員が対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	アミカルグループ内で避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用方法等の訓練を年2回と防災訓練を1回行っている。玉島消防署や西防災に立ち合いや講習も依頼している。	年2回夜想定で火災訓練を実施した。水害対策として特養の2階へ避難するようにしている。連絡網と避難経路は事務所の目のつくところに貼っている。備蓄は法人内の備蓄庫に3日分程を一括保管している。賞味期限間近の物は、職員や利用者で食し、法人全体の救命講習にも参加することができた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な場合もまずは本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉掛けをするよう努めている。	呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。夫婦で入居されている方へは、「お父さん」「お母さん」と呼ぶと反応が良い。言葉遣いには注意していて、事務所に「置き換え言葉」の紙を貼っている。月1回の身体拘束委員会でも、言葉遣いについて学びを深めている。利用者同士の居室の行き来はできるだけしないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことやプランを押し付けることはせず、複数の選択肢を提案して1人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。その日の体調や様子を見ながら、本人の希望を尋ねたりし過ぎて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援し、日頃からおしゃれを楽しんで貰っている。利用者に応じ、ピン止めや髪留め、シュシュ等、その人らしさを保てるように手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっても、魚が嫌いな方、パン食がよい方、麺やお寿司が食べたいという声が出た時には急ぎょ献立が変更する場合がある。代表者や利用者と一緒に取ってきた畑の野菜を使って調理したり食事が楽しくなる工夫を行っている。	食事は基本3食施設で手作りだが、施設の厨房で調理された物が届く。クリスマスにケーキが食べたいとの声が上がリ、職員が大きなケーキを買って出掛けて、利用者は満足した表情を浮かべていた。摂食・嚥下マイスターの資格を持つ職員が多くいて、専門的な介助・食事形態の対応ができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士がメニューを立て、食事の管理を行って貰っている。食事量は個々に合わせて確認するようにし、利用者の好きな食べ物や食べやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせて、食後は洗面所に行って頂く。義歯は夜間職員が保管し洗浄を行っている。自歯の方は月1回口腔ケアのために歯科受診している。職員は摂食・嚥下マイスター研修に参加し資格取得している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し身体機能に応じて手を差し伸べたり、介助している。排泄チェック表を使用し、尿意の分らない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄出来るよう支援している。	トイレは各居室についていて、排泄のプライバシーは守られている。プライバシー保護に留意し、居室ドアの閉め忘れにも気を付けている。排便チェックをするために、貼り紙を貼っている部屋もあった。排泄失敗時には、小声で囁きながらストレートに伝え、「居室へ帰ろう」と言葉を掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の徹底を行う。排泄パターンを記録し医療との薬の調整やリハビリや運動・体操の参加を促す。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を支援している。入浴を嫌がる場合には強要せず、時間や日を変えて頂くか、清拭や足浴に変更し清潔保持に努めている。	入浴は基本週2回の提供。夜勤者が入浴担当となり、衣類の確認ができるように工夫している。浴槽に入るのが難しい方は、隣接する施設の特浴を利用する場合もある。入浴を拒否される方へは、「汚れているから着替えに行こうよ」とさりげなく言葉掛けをしている。年末には大きい柚子が届き、気分転換となった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるようにしている。夜更かしをしてしまった場合には、朝食を遅らせる等の配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状況が変化した場合にはいつも以上に詳細な記録を取るようにし、医療との連携を取れるようにしている。服薬確認を確実にやっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で発揮して貰えるよう、お願い出来るような仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	広い敷地内には、季節を感じられる庭があり散歩など行っている。外で食事やおやつを食べる日もある。新型コロナ対策で家族や地域の人々との交流はなかったが病院への受診だけではなく、少しでも施設外に出るチャンスを作っている。	1日旅行を計画して鴨方方面へ家族と一緒に出掛け、利用者の現状を見て頂くことができた。夏には、施設の駐車場で花火大会を開催し、秋には、連島の浄水場へ他施設と合同でミカン狩りへ出掛けた。お正月には施設内で職員が獅子舞踊りを披露して、外出気分が味わえた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が深く、無くなったなどのトラブルもあり本人がお金を持つことは原則禁止している。施設建て替えて受診時に病院売店で買物をすることが出来る。注文や職員による買い物で好きなものを買える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり面会に来られない家族に近状報告をする時、電話をかわったり、手紙を書いて貰い同封したり写真を撮って送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光が入るように設計上、工夫されている。木がふんだんに使用されており、手作りの調度品も飾っており温かみを感じることが出来る。調理する音や食事の匂いで食欲が増す。	古民家の廃材を利用した木目調のウッドデッキが壁を彩り、利用者が自然と穏やかに暮らしていた。玄関の扉を開けると目の前にリビングが広がり、利用者はTVを観ながらティータイムを楽しんでいる様子が目の前に飛び込んできた。普段から職員や利用者同士で会話が弾んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とホールは一体的な作りで、全てが視界に入りやすい。ソファやテーブル、イスの配置に配慮し、落ち着いてくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔使用していた物や使い慣れたタンスなど持ち込みが可能である。	エアコン、カーテン、ベッド、クローゼット2つ、原木のハンガー掛け、洗面台、トイレが備え付けられている。居室では、アルバムを見たり、日記をつけたりして思い思いに過ごしている。ゴミ箱を作ったり、紙ちぎりをすると落ち着かれる方には、古新聞を置いている。表札に、手作りのしめ縄を飾り、正月気分を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、1人ひとりの分力を見極め、必要な目印を付けたり物の配置に配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない